

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473300057		
法人名	社会福祉法人 青山福祉会		
事業所名	グループホーム森の里		
所在地	三重県伊賀市腰山1135		
自己評価作成日	令和元年7月15日	評価結果市町提出日	令和元年10月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2473300057-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2473300057-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年8月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人がその人らしく、楽しく心穏やかになる生活支援(理念)に沿った対応を心がけています。  
音楽療法(地域の先生)に来てもらい、皆で集まって楽しく手や足を動かし唄っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

青々とした自然一杯の森の中から広大な土地に悠然とそびえ立つ建物が見える。社会福祉法人として特養、デイサービス、ショートステイと共に3ユニットのグループホームが建っている。広大な土地にふさわしいゆったりとした木造つくりの平屋建てである。すぐ側の木津川のせせらぎの静かな音に癒されホッと空間が感じられる事業所である。今年から職員全員で長い時間をかけて新しい理念「一人ひとりがその人らしく、楽しく心穏やかになる生活支援」を掲げ心のこもった支援を行っているのが利用者の穏やかな笑顔から読み取れ、地域とのつながりも沢山の行事への協力などから感じられる。又、家族もアンケートの文面から深い信頼関係が築かれている事が読み取れる事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成31年1月1日より、「一人一人がその人らしく、楽しく心穏やかになる生活支援」に変更対応している。	今年度より職員全員で「理念とは」からじっくり時間をかけて話し合い考えた結果、自分たちが今まで取り組んできた支援を言葉にしよう「一人ひとりがその人らしく、楽しく心穏やかになる生活支援」とグループホーム独自の理念が完成した。愛着もあり誇らしげでもあり心を込めて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎第3日曜日に民生委員の交流会、月2回の地域開催の喫茶に出かけている。七夕祭りのそーめん流しを地域の方々と行っており、地域の夏祭りに参加している。	一番の自慢は何かと尋ねると「地域との交流！」と話される通り、色々な行事への積極的な参加や支援をされている様子が壁面の写真などから読み取れる。また庭には毎年さつま芋の苗を植え収穫も利用者といい温かい関係が感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、法人の広報紙を通して状況を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換を行い、意見を取り入れている。	家族のような関係の民生委員の積極的な発言や意見を真摯に受け止め、職員間で共有しすぐに実行に移しより良い支援が行われている。議題によっては2時間近く意見交換する事もあり参加者全員で事業所の向上を願っている。	レベルの高い会議を利用者家族の代表だけが参加しているのは勿体なく、家族の面会も頻回にありコミュニケーションの良さも伺えるので、再度会議の意義を伝え家族の参加を促し更なる向上を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっており、話あっている。	社会福祉法人としても古く、行政との連携は密であり協力体制も取れている。利用料が安価な事や保佐人の付いている利用者があったり、生活保護者入居の相談なども行政からあり信頼されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束(事故防止委員会)の会議を行い、職員全員に周知している。職員目の届かない所には出入口があり、やむを得ず玄関の施錠をしている。	「認知症の人の思いを知る」という研修に参加し、すぐに全職員と研修内容を共有し、身体拘束や虐待について再度確認し合い、正しい支援ができるよう常に心に留め置きケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度、高齢者虐待(事故防止委員会)の会議を行い、職員全員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の保佐人が居られる。大まかな内容については皆、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・退所時・改定時は、十分話し合い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフや管理者、第三者委員会に相談できる機会を設けている。家族会でのアンケート、電話連絡の際に聞くようにしている。	家族の面会時・ケアプランの見直し時・家族会などの行事の時などは勿論、毎月の電話報告時に意見や思いを聞くようにしている。家族アンケートでも気軽に話しやすい環境であるとの意見が多く、気負わずに意見交換ができる環境である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議の中や、開いた時間に直接話を聴くようにしている。意見のいいやすい職場にしている。	3ユニットから職員不足により2ユニットになり大幅な人事異動があった。職員も利用者も不安定な時期があったがすぐにチームワークの良さで乗り越え今までと変わらないケアが出来ている。また悩みを持っている職員への対応も全員で取り組み関係性の良さがみえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革の実施。給与に関しては、各自いろいろな思いがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修等の参加や、職員個々に目標をたて、ふり返りの評価を行っている。ストレスチェックも行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修を通しての交流はあるが訪問等を行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話す機会を多く作り、不安や要望聞き安心してもらえるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を聴き、何かあれば連絡を取る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からしっかりと話を聴き、対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話等を聞き、教えてもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を取ったり、毎月の近況報告を送付し共に支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に外泊したり、馴染みの理髪店へ行く。	家族との外出・外泊以外にも、84歳の同級生が迎えに来て今までにない笑顔で同窓会へ出かけて行ったり、年賀状や手紙のやり取りなど良い関係が継続され楽しく生活している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節の行事を行ったり、音楽療法でいろんな席に座ってもらい、過ごしてもらっているきっかけを作り、声かけ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば、連絡下さいと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取り、その人らしく生活できる様思いを汲み取っている。職員間も共有し合う。困難な方には、家族からの情報提供してもらう。	日頃からのケアや支援でどんな思いをしているかを感じ取り、今何をすべきかの判断も瞬時にできている。そんな中でも職員の自己満足になってないかと反省したり注意し合いながら、利用者の思いや意向を知る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や本人との話の中で聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、看護師、リーダー、副主任、計画担当作成者で話し合い作成。家族に説明し、意向を伺っている。3か月のモニタリングを行っている。ひもときシートの活用。	多職種との連携も取れ、全職員が介護計画の内容を把握し支援にあたっている。また家族への説明も誰でもできるように共有している。困難事例はひもときシートを活用し、より良い支援ができるように努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調、身体の変化に合わせて、職員間把握している。個人日誌に様子等を記載している。情報共有行為に、連絡帳に記載し周知を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、スタッフの状況に応じて、利用できそうな所の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の方々との交流し、祭りの参加行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化気づき、連絡。家族対応ができない場合は、職員で対応している。	主治医(内科医)の定期受診は3ヶ月に一度、歯科医は2ヶ月に一度、また他科受診は主治医の紹介状によりスムーズに受診できている。家族の受診が無理な場合は職員の同行で対応している。事業所内看護師や訪問看護師との連携も取れ、適切な医療支援が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の相談や、状態に変化があった場合は、ホーム看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが、訪問したり連絡を取って、状態把握行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に、カンファレンスを行い、看取りの勉強会を行っている。	看取り希望時は主治医の指示のもと家族の同意書を取り、マニュアルに沿って体制を整えている。また自然な環境で迎えるように畳を敷いたり、何度も様子を伺ったり手厚い支援が行われている。また希望により泊まって見守りたい家族の支援も心掛けている。職員は何度も勉強会を開きチームで良い支援ができるよう心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、救命講習を必ず受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル作成。消防士、消防団立ち合いの元、避難訓練と伝達訓練を行っている。利用者災害カード作成。	夜間時の火災訓練を消防署の指導のもと開催し、火災時は口を押える事、停電時は内線電話が使用できない事など細かい指導を受け、防災意識の低さを指摘された。夜間時の訓練の重要性を実感し今後活かすよう努力している。救命研修も全員受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意識を高める様、会議で話し合う。接遇マナーの研修に参加してもらい、会議の中で発表してもらっている。	年間計画にて接遇マナーの研修も経験に応じて参加し、すぐにその研修内容を全職員で勉強し利用者の人格の尊重やプライバシー保護に努めているか等、再確認し支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、生活の中でコミュニケーションを取り、選択できるような言葉かけを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のニーズに合わせられるよう考え、支援行う。ゆっくりと話を聞く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧品を使ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や、行事がある時には職員が買い出しに行き、食事を作っている。食器洗い等、できる方にしてもらっている。	管理栄養士が栄養スクリーニングにより一人ひとりの健康状態や既往歴などを把握し献立を考えている。体重を減らさないといけない方へも食事量を考慮し体調が改善された事例もある。職員は盛り付け方や雰囲気作りを考慮し楽しく食事ができるよう配慮している。利用者も「美味しい」と好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、栄養バランス、摂取カロリーを考えて献立している。全員、栄養スクリーニングを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。毎月口腔ケア委員会にて、協力歯科医に訪問してもらい指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握を行っている。個々にあった対応を行っている。	チェック表にて一人ひとりのパターンを把握し支援している。昼夜変わらず約半分の方は布パンツで過ごし、他の方は布パンツにパット、リハビリパンツである。プライバシーセンサーなどを使用しているが失禁はほとんどない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下を一緒に歩いたり、水分や牛乳を飲用してもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の中でタイミングを合わせて、支援を行っている。	週3回午後から、一人ずつ入浴している。季節に応じたゆず湯やしょうぶ湯などの他、入浴拒否の方には「今日は美人の湯」と話すと入浴する方や、一番風呂の希望者、昼食後なので少し休んでからの希望者など、楽しく入浴して頂く工夫を小まめにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調節や雑音等に配慮している。不安を取り除く様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容に変更等があった場合は、全員に周知する為、連絡帳に記載し様子観察を行うよう伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や洗濯物たたみ、新聞を読んだりとされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、外出支援を行っている。本人が出かけたい場合は、職員、家族、他の地域資源を活用しながら、外出できるよう心がけている。	近くの観光地へ大草原の花を見学に行ったりするが、事業所のロケーションがすぐそばに川が流れ桜の木など絶景でありデイサービスの方が見学に来るくらいである。部屋からだけでなく、たまにはお弁当を作り外でいただくこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の取り決めにより、本人の所持は、行っていない。希望者には、預貯金の引き出し手続きを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと言われた際は、連絡行う。職員協力の元、葉書や、年賀状を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁面を作って貼ったり、季節の歌を皆さんと一緒に唄っています。光庭の花や家庭菜園を行っています。	光庭からの明かりをはじめ天井からの優しい光、フローアーからは大きな窓越しに木津川の流れやせせらぎ、大きな桜の木など木造の建物にふさわしい造りで別荘に来ているような雰囲気である。利用者も昼寝以外はフローアーで過ごし居心地の良さを感じられるような空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂スペースは、グループで過ごしたり単独でも使用でき、その時々で配置を変える事もできます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内には、本人の思い入れのある物を置いてもらっていて、本人が使っていた湯のみとお茶碗で食事をしてもらっている方もいる。	ベッドと洗面台、クローゼット以外は自分たちの思いを大事にした物が置かれたり飾られたりしている。部屋にTVやポットが置いてあり、自分でポットでお茶を入れのんびり過ごされている方もいる。一人ひとりの思いを大事に居室も配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態、状況にあわせて出来る事をしてもらっています。		